



目標 3

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

ターゲット 3.3 2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。

エイズ予防教育

アフリカ

ガーナ

概要：2002 年 8 月よりエイズ予防教育を実施。コンドーム教育の不備を指摘し、結婚前の貞操を守る自己抑制教育を基本とした教材を使用してエイズ予防を指導している。

2009 年より、WFP 日本が作成した「エイズ時代に生きる」「新しい性教育」や、「フリーティーンズ」を使ってセミナーを実施。

2014 年より、フリップとパワーポイントの両方を使い、より効果的に実施。

実施状況

【2017】

2 月～12 月、首都アクラ市にあるプログレッシブ・フェイス・スクール、ホーリー・チャイルド・アカデミーなど 15 校において、エイズ予防教育、家庭の価値教育を実施。参加総数は、2,013 人。



アマサマムオバ小中学校にて授業

【2018】

2 月～10 月、首都アクラ市にあるアマサマムオバ小中学校、ティーチャー・アダムズ・スクールなど 12 か所において、エイズ予防教育、家庭の価値教育を実施。参加総数は、1,000 人以上。里親奨学金を受けている医学生が活動をサポートした。

モーリタニア

概要：モーリタニアの青少年に HIV 感染者が増えたことから 2001 年より実施。「エイズ時代に生きる」のフランス語訳にアフリカの資料を加えたパワーポイントを作成し、教材として使用。電気が通っていない地域においては、フリップチャートを使用した。モーリタニアでは、一度エイズ予防教育を受けた人がその内容に感動し、次の人を紹介してくれるというように、人伝いに教育が広がっている。

実施状況

【2017】

- 10 月 28 日、首都の外れにあるアラファト地区のコミュニティ、カンダハール・アソシエーションで約 50 人の男女を対象に、フランス語のプログラムを部族語のプラール語に通訳し実施。
- 11 月 6 日、首都から車で 3 時間の新興都市シャミ市の中学校にて教師と生徒約 80 人を対象に実施。生徒たちから、「遠い国から自分たちの為に来てくれたことを感謝している。この内容を家族や多くの人達に伝えていきたい。」との感想があった。
- 11 月 17 日、首都ヌアクショットの国立公衆衛生学校にて、教師と生徒 67 人にエイズ予防教育を実施。女性の校長は「WFP のエイズ予防教育は他の物とは違い大変素晴らしい。これからも交流を深めていきたい。」と感想を述べ、感謝状を派遣員に贈った。
- 12 月 2 日、元駐日モーリタニア大使の依頼により、大



シャミ市の中学校にて授業

使の故郷バゴディンでエイズ予防教育を実施。市長も大歓迎して下さい、周辺の村人たち 200 人以上が野外広場いっぱい集まった。

【2018】

- 10 月 27 日、首都郊外アラファト地区のコミュニティ、カンダハール・アソシエーションで既婚・未婚の男女 40 人にプラール語で実施。参加した医師が今までに聞いたことのない内容に関心を示した。
- 11 月 2 日、シャミ市の中学校を訪問。この学校の校長先生が WFP プログラムの内容を受け入れてくださり、ここ数年毎年実施。約 60 人の生徒が参加し、熱心に聞き入っていた。同学校より感謝状が授与された。
- 12 月 1 日、世界エイズデーにちなみヌアクショットの貧困地域エルミナ地区にて、小さな子供を持つ女性約 50 人にエイズ予防教育を実施。参加者は、「大切な内容だ。」と真剣に聞いていた。



ガーナ

【対象】 ガ地区アマサラム地域・アクラ市・アクラ市郊外の小中高生
 【支援期間・金額】 学費・制服・くつ・文房具の費用として毎年 12,000 円を小中学生に支援。授業料として 50,000 円を高校生へ支援。1 年ごとに見直し。
 【開始年度】 2002 年 1 月
 【里子数】 (2017) 54 (2018) 51
 【里親数】 (2017) 55 (2018) 55



ギニア・ビサウ

【対象】 ソナック小学校の児童、ソナック中学校の生徒
 【支援期間・金額】 毎月 3,000 円または 1,000 円
 【開始年度】 2001 年 1 月
 【里子数】 (2017) 43 (2018) 41
 【里親数】 (2017) 43 (2018) 41



ケニア

【対象】 ハンドウ中学校・高校の生徒
 【支援期間・金額】 1 年間 15,000 円。1 年ごと更新（希望があれば継続）。
 【開始年度】 1998 年 5 月
 【里子数】 (2017) 40 (2018) 40
 【里親数】 (2017) 19 (2018) 18



赤道ギニア

【対象】 モトコ・シロマ幼稚園・小学校とピラール・モモ幼稚園・小学校他数校に通う 5～15 歳（幼稚園～小学 6 年生）の生徒
 【支援期間・金額】 1 年間の授業料（学用品含）10,000 円の支援
 【開始年度】 2002 年 10 月
 【里子数】 (2017) 100 (2018) 107
 【里親数】 (2017) 95 (2018) 92



マラウイ

【対象】 優秀だが経済的な理由で学業継続が困難なムズズ大学保健科学部の看護学生
 【支援期間・金額】 年間の学費 62,500 円を支援
 【開始年度】 2016 年 3 月
 【里子数】 (2017) 6 (2018) 8
 【里親数】 (2017) 6 (2018) 8



モーリタニア

【対象】 5～15 歳（中学生）の孤児もしくは貧困家庭の子ども
 【支援期間・金額】 毎月里親会員 3,000 円・サポート会員 1,000 円。この会費の 8 割が養育費となる。コレッジ（中学 3 年）を卒業するまで支援。
 【開始年度】 1997 年 10 月
 【里子数】 (2017) 13 (2018) 14
 【里親数】 (2017) 6 (2018) 7



ルワンダ

【対象】 ニューホープ技術専門学校に通う孤児・貧困者
 【支援期間・金額】 1 年間 30,000 円
 【開始年度】 1999 年 1 月
 【里子数】 (2017) 57 (2018) 53
 【里親数】 (2017) 56 (2018) 60

その他実施国：インド、カメルーン、スリランカ、ホンジュラス

奨学金制度

国名	対象	支援期間・金額	開始年度	奨学生	
				2017	2018
アジア					
スリランカ	成績優秀ながら貧困家庭の高校生、大学生、専門学生	高校生：年間 12,000 円を原則として 2 年間 大学生：年間 22,000 円を卒業まで	2002 年 11 月	24	26
アフリカ					
ガンビア	成績優秀で就学継続困難な中学 1 年～高校 3 年	中学生は年間 7,000 円、高校生は年間 15,000 円	1995 年 9 月	68	67
ザンビア	優秀だが貧困のため学費の払えない国立デビッド・カウンダ・テクニカル・ハイスクールの生徒	年間 60,000 円を学費と寮費として、3 期に分けて支援。	2013 年 9 月	10	3
中東					
ヨルダン	大学生	年間 500,000 円	2001 年 11 月	14	12
パレスチナ	イゼルディン・アブエライシュ医師が創設した「ドーターズ・フォー・ライフ財団」が支援するパレスチナ出身の女子大学生	2017 年に 8,000 ドルを財団に寄付。			

その他実施国：ウガンダ、モーリタニア

里子たちの感謝の声



ルワンダ

ニューホープ技術専門学校卒業生で三角弘子さん（WFWP 福岡第 1 連合会、写真右）の 2 人の里子が、2018 年 10 月 19 日に開催された「ニューホープ技術専門学校創立 20 周年記念式典」にて、卒業生を代表して感謝のメッセージを里親の三角さんの前で述べました。

ウィネジア・イマキュリー（中央）

「内戦で両親を亡くし、虐殺孤児となり、夢も希望もなかった時、ニューホープ技術専門学校の学費支援のおかげで入学でき、卒業し、レストランのシェフを任せてもらうようにまでなりました。その後結婚して、家

族の支援もできるようになりました。この支援のおかげで、虐殺後孤独だった私に生きる自信を与えてくれ、考えもしなかった将来を描かせてくれました。学校が私を支えてくれたように、今度は私が学生たちに学外実習の機会を与えてあげることができるよう支援したいです。」

ニシムウェ・ジャン（左）

「虐殺で両親を亡くしましたが、何とか生き残り、故郷に帰って、修繕した家に住んでいると、家族を殺した敵民族が、故郷に帰ってきました。僕が家の中にいる時に、家を焼かれました。何とかそこから生還し、しばらく入院して、ようやく退院。唯一の親族のおばさんのところに行くと、その夫から同居を断られ、行く当てもなくストリートチルドレンとして生活していました。その時に、ニューホープ技術専門学校の前学長に町で出会い、『現状から抜け出すために学校に来て勉強しなさい。』と言われ、里親に支えられ、何とか卒業し、自分で起業することができました。ニューホープの支援がなければ今の自分はありません。」

現在は、VIP なども相手にするやり手の美容師に成長した。在学中唯一の頼りだった里親の三角さんの写真を携帯の待ち受けにして大事にしている。